

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	生活困難家庭の青少年へ対する学習支援事業「ひだまり塾（I期）」
団体名	チームひだまり
市担当課名	福祉部生活福祉課
事業の目的	経済的困難のため高額な学習塾に通えない家庭の青少年へ対し学習支援を行う。学習支援は、基礎学力を身に付けさせることで自信を回復させるとともに、支援し理解する者がいることにより自己肯定感を高めさせることが目的である。本会は、高校卒業資格取得まで継続支援する。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間…2017年6月～11月 毎週土曜日</li> <li>・実施場所…コミュニティカフェひだまり</li> <li>・実施内容…学習支援。基礎教科を少人数制で、理解力にあった指導をする。</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">小学生の部：22回開催、（在籍11人前後）延べ176人参加。          中高生の部：24回開催、（在籍7人）延べ114人参加。</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 …事業の周知。 …場所と講師を用意し「ひだまり塾」を実施する。 …子どもの貧困や学力について市民へ啓発を行う。
	川越市の役割 …関係課への連絡調整。広報。 …子どもの貧困実態調査や市の教育に関する施設等への提案、情報提供。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひだまり塾の生徒はこの3年間で大幅に増えた。大半がロコミだが、最近は公的機関から、受入れ依頼の問い合わせもある。少人数制対応し、学習の遅れを取り戻させることが着実にできている。</li> <li>・今年度から「高校生クラス」もスタートした。二人ともひだまり塾中学部からの継続。一人は進学希望。指導力の高い学生が多いので指導できる。</li> <li>・難病で不登校気味だった生徒は、学力がつくに従い自信を持てるようになり、登校ができるようになった。体力もついて、ついに難病は完治した。</li> <li>・川越市が今年度から実施した「ひとり親家庭への学習支援」(塾トライ)を受けている中学生が、「トライでは大人数で一斉に進むので、わからないところはわからないまま。結局私はバカなんだと思った。もう行きたくない」と、ひだまり塾へ来るようになった。1対1で指導するのでどんどん力が付き、休まずに来ている。</li> <li>・チームひだまりは、2014年度より学習支援を行ってきた。2015年度に本補助金に申請したのは、学習支援は一市民団体が細々と取り組めば解決できることではないと、市へ警鐘を鳴らすためであった。高額塾へ通うことが前提のような公教育では、経済的に苦しくなると子どもを塾へ行かせることはできず、低学力青年を大量に作り出すことになる。3年間のプレゼンや報告会を通し、警鐘を鳴らすことはできたと思う。</li> <li>・担当課が、関連課と連携して動き出していることは、提案した者として大変嬉しく思う。</li> </ul>

協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業補助金は補助率50%。ひだまり塾6か月分の50%を申請してきたので、年間必要額の4分の1でしかない。ひだまり塾が周知されるに従い、受講生は要保護・準要保護家庭が多くなり受講料が減額した。それだけ困窮家庭で学習支援を必要としている青少年が多いと言える。補助率50%では継続は難しい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	チームひだまりは、補助率の高い各種助成金・補助金の獲得に努め、生活困難家庭の青少年へ対する学習支援を継続する。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越きものの日事業
団体名	川越きものの日実行委員会
市担当課名	観光課
事業の目的	川越きものの日実行委員会では、「きものが似合うまち川越」を合言葉に、毎月8の付く日を「川越きものの日」として、きもの姿で川越を楽しんでいただけるお客様を増やすことを目的として様々な事業やサービスを提供します。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月18日には、蓮馨寺にて無料着付けや物産展などを開催し、きもの姿の誘客を図る。 (毎回30-50人参加)</li> <li>・8月18日の周年記念日には、蓮馨寺にて「ゆかたコンテスト」を開催し、広くきものを着る機会を提供する(参加者50名)</li> <li>・1月18日には、「きもので初詣」と銘打ち、市内の寺院を巡り、写真撮影や食事会を開催する(参加者40名)</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割：事業の実施。協賛店の拡大。事業の周知
	川越市の役割：広報。市の施設の利用。
事業の成果	* 8/18のきものの日設立周年記念日に実施した「ゆかたファッションショー」には、秩父など川越市外からも参加される方が増え、毎年50名の方が思い出のあるゆかたを披露する場として定着してきました。また、外国人観光客なども見学され、きものの似合う街川越をアピールすることができました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	きものの日独自のホームページを立ち上げ、気軽に検索しながら、協賛店を巡ることができるようにして拡大を目指します。また、最近増えている外国人観光客にも英語での発信を増やし、新規・リピーターともに増やしていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会事業
団体名	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会
市担当課名	産業観光部 観光課
事業の目的	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会は、小江戸川越の更なる活力の向上に資するため、小江戸川越で培われた粋な伝統和芸を守り育てることを目的として様々な事業やサービスを提供します。
事業の実施内容	小江戸蔵里・八州亭において、4月から3月まで毎月第二、第四土曜日の夕方に「伝統和芸鑑賞会」を開催。 1月までの状況は、計18回の開催で、観客数が495名（昨年441名）、参加団体数が17団体（昨年14団体） 演目内容は、幫間芸、篠笛、箏、日本舞踊、芸妓衆、民謡、尺八、雅楽、三線、巫女舞、三味線、琉球舞踊、かっぼれ、地唄舞等
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・小江戸蔵里「八州亭」において、伝統和芸鑑賞会を実施 ・各回毎に伝統和芸鑑賞会のチラシを作成し、小江戸蔵里、観光案内所で配付 ・共通前売チケットを作成し、小江戸蔵里「八州亭」で販売
	川越市の役割 ・広報紙の掲載や市の施設の利用
事業の成果	川越市の広報紙掲載記事を見ての参加者は、14名とまだ少ないですが、継続することにより、効果が期待できると思います。 前年度に比べ、参加費の値下げ（1,500円を1,000円）や共通前売チケットの導入（当日券より100円お得な900円）、開催予定の情報公開を早めたことにより参加者が増え、「伝統和芸鑑賞会」が定着しつつある。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働提案事業としては「伝統和芸鑑賞会」が中心となります。現状のチラシ配布場所は、観光協会と蔵里・八州亭で行っていますが、まだまだ認知度が低いと思います。今後は、各観光案内所やウエスタ川越にもチラシを配布し、イベントの周知を広めていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	毎回、協力していただいている東京国際大学の学生に加え、今後は、各大学の留学生を招待するなど伝統和芸の周知を広め、川越を訪れる外国人観光客が気軽に参加していただけるような事業に発展させていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域猫活動推進事業
団体名	小江戸地域猫の会
市担当課名	川越市保健所食品・環境衛生課
事業の目的	飼い主のいない猫の不妊・去勢手術補助金事業を活用することにより、飼い主のいない猫に起因する苦情を減らして、地域猫対策の大切さを理解していただく。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●7月23日(日)小江戸蔵里ギャラリー 10時～16時「さくら猫の写真パネル展」・・・約50名の来館</li> <li>●9月23日(土)ウエスタ川越1階多目的ホール 13時30分～16時 「飼い主のいない猫のシンポジウム」約70名の参加</li> <li>●10月14日・15日 川越祭りにて広報活動</li> <li>●飼い主のいない猫の不妊・去勢手術に対する補助金交付事業ポスターを作り動物病院に掲示</li> <li>●随時飼い主のいない猫の相談に対応し約180頭の不妊・去勢手術を実施</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 パネル展・シンポジウム開催を主導し、飼い主のいない猫の相談に対して現地へ赴いて、不妊去勢手術のアドバイスや援助をする。
	川越市の役割 市民の相談への対応。飼い主のいない猫の問題解決に有効な地域猫活動の市民への広報。
事業の成果	写真展やシンポジウムに参加していただいた方のアンケートでは「行政とのかかわり方について大変勉強になった」、「とても有意義な内容だったので、機会があればまた参加したい」との感想が多く、もっと開催してほしいとの要望がありました。また、飼い主のいない猫の問題の対処の仕方が分からないと長年悩んでいた方からは、補助金事業やその他の広報を最近目にするようになり、大変ありがたいとの声も寄せられました。少しずつですが、確実な成果があったと思っています。そして、この流れを断つことなく継続の大切さも実感しています。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	写真展やシンポジウムのチラシ作成が遅れてしまい、十分な広報が出来なかったことが反省点です。活動を多くの市民に知っていただく事が、この事業の成果につながりますので、広く市民に周知ができるように、スケジュールや広報の方法を見直したいと思います。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	引き続き出来る範囲で活動していく予定です。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	紅赤いも120年記念事業～市民へ”紅赤”を伝える！～
団体名	川越サツマイモ商品振興会
市担当課名	産業観光部 観光課
事業の目的	川越地方で古くから栽培されている伝統作物で、ブランドでもある「紅赤」の発見120年記念（2018年）を契機に改めて市民にその価値を広く知っていただくと共に、川越地方の観光資源として再度光を当て、関係者並びに市民に対しても紅赤保存の意識を高め、観光産業の振興に役立てたい。
事業の実施内容	1：冊子『イラスト紅赤いも歴史物語』1000部作成発刊（10/13）配布 2：紅赤に関する試食等のセミナーの開催（12/16川越総合市場 40名）（11/25東京都東新橋 日本いも類研究会に協力 20名）（1/20三芳町多福寺 三芳町に協力 80名） 3：紅赤いも等の販売イベント（12/10 川越産農産物と食のイベントに出店川越産農産物ブランド化連絡会） 4：「紅赤いも解説チラシ」5000部作成発行
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割・・・冊子「紅赤いも物語」の発刊配布や「紅赤いも解説チラシ」の発行 / 紅赤に関するセミナーの開催 / 紅赤いも等のイベント販売など
	川越市の役割・・・関係団体の連携連絡会開催の協力 / 冊子等の関係機関への配布など
事業の成果	1：冊子『イラスト紅赤いも歴史物語』1000部を作成発刊（10/13）し、いもの日まつりにて発表披露することが出来た。その後、同冊子に関係2市1町（川越市、三芳町、さいたま市）及び関係団体・グループ（当会会員・川越いも研究会・観光協会など）や関係者へ10～11月に配布した（400部）。また紅赤に関するセミナーでも活用配布（60部）、実費頒布等（360部）した。 2：紅赤いもに関するセミナーに参加した方へ、紅赤の歴史や特色などを話し、試食を行って理解を深めてもらった。 3：紅赤いも解説チラシ500部を作成することができた。2018年の当該年に広く配布する。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	1：各関係団体等への説明に意外と時間がかかった。 2：セミナー等の開催にいろいろと準備がかかった。 3：紅赤いもに関心を持つ方に対して、紅赤が入手できる方法を充分知らせることができなかった。 4：2018年は当該年であるため各関係者と密に連絡を取って準備を進めたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	紅赤生産保存と加工商品販売の仕組みづくりを定着させる活動を行う。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	東日本被災地へ励ましカードを届ける巡回展
団体名	自立の家つどい
市担当課名	学校教育課 学校管理課
事業の目的	震災から6年以上が経過し、災害の記憶や支援意識が年々風化しています。前年以上に被災地の人々の心のケアの一助となるべく、励ましカードの制作を小中・高校生を初め、多くの人に呼びかけていくことで、「今、被災地の人々に何が必要なのか」を若い世代とともに考え、取り
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校管理課を通じ、月例校長会に趣旨説明を行い、各学校へ依頼した。</li> <li>・まつり会館休憩室で観光客に励ましカードの制作を呼びかけた。</li> <li>・『励ましカードを届ける展示会』を実施 実施日：12月3日(土)～4日(日) 場 所：ウエスタ川越2階ワークショップ・情報コーナー</li> <li>・「第6回『国境を越えて心と心をつなぐクリスマスカード』展示会」に参加 実施日：12月24日(土)～28日(水) 場 所：福島市駅前「こむこむ館」2階 ※福島の展示終了後には、石巻市内でもカードが展示された。</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内公立小・中・高校および特別支援学校へカード・ポスター等の作成をよびかけた。</li> <li>・まつり会館休憩室や公民館で観光客と一般市民に協力を呼びかけた。</li> <li>・集まったカード等の取りまとめ、および展示</li> <li>・新聞社等のメディアへの取材働きかけ</li> </ul>
	<p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の提供</li> <li>・広報（市広報紙への掲載等）</li> <li>・市内公立小・中・高校および特別支援学校への呼びかけ</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校管理課を通じて市内小中高校に励ましカードの制作を呼びかけを行い、また広く市民に呼びかけたことで、最終的に約7,000点の励ましカード等が集まった。特に市内中学3年生の生徒から福島の中学3年生あての葉を依頼したことで、進路に悩む福島の学生との双方を勇気づけることができたと思う。</li> <li>・特に今年は県内の養護学校7校から、現地の写真と御礼のメッセージをいただきました。</li> <li>・まつり会館休憩室で励ましカード制作を呼びかけたことは、漸新な取り組みと評価され、市のイメージアップに寄与できた。</li> <li>・市内各学校校長宛てに展示会の開催の周知を依頼したが、児童生徒・父母の来場が少なかったため、周知の方法を改めて検討したい。</li> <li>・福島の展示会に参加したことにより、川越の協働によるカード制作の取り組みがNHKのコラムや地元のテレビで取り上げられ、川越の展示の様子も紹介され、川越のイメージアップにつながった。</li> </ul>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	被災地への資金援助は、私共のような小さなボランティアグループには出来ないけれど、お金に替えられない心の贈りものを裾野を広げ、多くの人に訴えていくことが課題と対応でもあると思う。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	次年度以降の励ましカードの取り組みは、中央大学名誉教授の田中先生のお気持ちを尊重しながら、色々な角度から検討し継続していきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「里山讃歌音楽祭」KAWAGOE2017
団体名	尚美学園大学
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	・Farm（農）、Food（食）、Festa（祭）の3F運動の推進を通じて、小江戸川越地域ブランドづくりと地域活性化に貢献すると共に、市民に開かれ地域に根ざした音楽祭としての定着を図る。また、本音楽祭への参加を通して、川越や里山への関心や愛着を育み、地域に貢献したいと考える次世代の担い手達を育成していく。
事業の実施内容	●吹奏楽と合唱を中心としたコンサートの開催 【日時】平成29年12月23日（土・祝）14:00～16:30 【会場】ウェスタ川越大ホール 【出演】尚美ウインド・フィルハーモニー、尚美ヴィジュアルディ合奏団、尚美学園大学合唱団、埼玉県立川越総合高等学校音楽選択生（*詳細は別添のチラシ・記念誌を参照のこと）
事業実施時における市との役割分担	【市民活動団体等の役割】 ・音楽祭の企画・運営／・参加高校との連絡調整 ・ウインド・フィルハーモニー、合唱団の組織化・指導・練習 ・チラシ・ポスター・チケット・記念誌の制作・発行
	【川越市の役割】 ・音楽祭の開催告知・広報活動 ・川越市役所内の連絡調整
事業の成果	・当日の来場者数は、目視で約400名、モギリ数338枚、チケット販売数88枚と、昨年より200名ほど来場者数が減少したが、年々リピーターも増加し、演奏・鑑賞両面でのコンサートの質の向上が実感できた。 ・来場者の内訳は、一般来場客約27%、出演校関係者（保護者を含む）や招待者が約73%となっており、まだまだ招待客依存の傾向にあるが、毎年楽しみに来場して下さる方も増え、少しずつ地域に定着してきた印象がある。 ・実施アンケートでは、来場者減にも関わらず67名（来場者の約2割）から回答協力が得られ、「大変よかった73%」+「よかった22%」=計95%と前年同様、大変な好評を得た。 ・本年度の参加高校は県立川越総合高校1校のみであったが、本音楽祭発足当初の原点に立ち戻り、練習から本番に至るまでのプロセスを重視し、高大連携の強化と学生達の参加意識の醸成を図ることができた。 ・参加者数（出演及び運営）約220名：高校生33名・約大学生155名・大人32名（指揮者・指導及び運営教職員）／本年はソリストも全員現役の大学（院）生が務めた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	・協働事業としては本年度が最終年。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	・大学予算、協賛団体の呼集、参加団体からの参加費徴収等によって継続的に実施できるよう図っていく。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。



# 平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	観る朗読「東京タワー」川越スカラ座公演
団体名	川越の文化活動を応援する会
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	観る朗読『東京タワー』の朗読公演を通して昭和の時代に生きたリリーフランキーの家族の生き方を観ることにより現代の家族の絆や繋がりを改めて考える機会としたい。また映像を使う事から川越の文化遺産とも言える映画館「川越スカラ座」を会場とすることによって市の内外の人にこの貴重な映画館を知って貰い今後も足を運んで頂きながら支援して頂くようにしたい。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月18日（火）14：30～16：30と19：00～21：00の昼夜の二回公演。観る朗読「東京タワー」の朗読公演を実施、出演は川越市在住の女優谷英美。観客数は昼は123名、夜は117名。（定員124名）</li> <li>・12月16日（土）～18日（月）「スカラ座公演報告展示会」場所は小江戸蔵里のギャラリー。川越スカラ座公演の写真、ポスター、アンケート展示、スカラ座の上演予定の展示とチラシ配布。タワー繋がりで「火の見櫓写真展」（元NHKカメラマンの網代守男遺作展）を併催。17日（日）13：30～15：00はスカラ座公演の報告と書道ライブ、朗読会（一般参加者も含む）を開催、3日間の参観者数は80名を超えた。</li> <li>・1月22日（月）実行委員会（反省と今後の予定）</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化的な活動がさらに活発になるような催し物を通じての、川越の歴史や文化の発信</li> <li>・川越市に現存する川越スカラ座のような建造物の魅力を市の内外の人に知って貰う機会を提供する。</li> </ul>
	川越市の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的建造物の多い川越の町並みを生かした文化的な活動への支援</li> <li>・具体的な活動への指導助言</li> </ul>
事業の成果	○7月18日（火）14:30～16:00 19:00～21:00 2回公演参観数昼123名夜117名。関係者14名（実行委員スタッフ等） 映画館なので舞台づくりには苦勞をしたが昭和の時代を彷彿とさせるこの映画館でリリーフランキーの東京タワーの世界をお客様にお届けする事が出来た。昭和のの面影を今に伝える川越スカラ座の素晴らしさを市の内外の多くの方に知って頂くことが出来たのも嬉しいことであった。また「川越スカラ座」の宣伝にも寄与する事が出来た。（資料、チラシの展示と配布） ○12月16日（土）～18日（月）報告展示会はスカラ座公演の報告と舞台写真、東京タワーの写真、火の見櫓の写真展（元NHカメラマン網代守男遺作展）併催。 スカラ座公演に来なかった人にも公演の様子と川越スカラ座について知ってもらうことが出来た。期間中17日（日）午後には報告会、書道ライブ、一般参加者も含めた朗読会を開催し川越スカラ座のPRもさせていただいた。リリーフランキーの東京タワーの魅力的な世界と川越スカラ座の歴史と価値を多くの方々知ってもらうことが出来たのも成果の一つであると考えている。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今回は7月18日という早い時期での朗読公演で協働事業としていろいろな面で川越市の担当の方には具体的な指導助言や直接の対応もしていただいたお陰で無事に事業を終了する事が出来た。川越スカラ座が会場の朗読公演と言うことでさらに実行委員会が自主的に動く必要があったが実際には文化芸術振興課の担当者にはお世話になりっぱなしだったと反省点もあげられた。担当課との連携はもとより実行委員会の自主的な活動がさらに必要であると考えている。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	川越スカラ座という舞台のホールとは違った会場での本格的な公演は参加者のチケット代だけではまかない切れな部分もあるので補助金等の支援もどうしても必要になってくる。今後とも文化的な有意義な活動については格段のご配慮を頂ければ有り難いと考えている。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越市内小中学生に向けた体験茶道教室
団体名	無相庵
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茶道文化の発進及び茶道を通して各世代間の交流を促進し地域コミュニティの活性化を図る。</li> <li>・ 茶道体験を通して自分磨きと豊かな心を育み、潤いある楽しい生活の一助とする。</li> </ul>
事業の実施内容	<p>●市内小中学生を対象として茶道体験教室を開催          会場：ウエスタ川越 ※各日午前・午後の二部制          日時：8月20日、9月30日、10月7日、11月19日、12月17日          ※各日午前・午後の二部制 延べ38人参加</p> <p>●国立博物館九条館にておさらい茶会を実施          日時：11月23日 23人参加</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 歴史ある川越から伝統文化芸術である茶道を発信し多くの方に茶道を体験して頂くことで、地域の人と人との繋がりの連携役を果たす
	川越市の役割 広報掲載（一般の方に多く参加して頂けるよう掲載）
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の茶道への認識が高まった</li> <li>・ お稽古では、亭主（おもてなし役）とお客様に分かれ、亭主側はお菓子とお茶の出し方とお点前をする時の心構えや心配りを学んで頂いた。お客様側は亭主のおもてなしに対し敬意と感謝の思いでお菓子・お茶をいただくことを学びました。亭主・お客様双方に、礼儀作法や気づき気遣う大切さを知っていただいた。</li> <li>・ 東京国立博物館の九条館おさらい茶会では、日本古来の伝統的書院創りの茶室で生徒に着物を着てお客様へお茶の運びをしていただき、生徒にとって貴重な体験となった。</li> </ul>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	提案型協働事業としての募集期間は年度当初となる為、実施するためには小中学生向け茶道体験教室がある事を身近に知って頂くよう、各地域の子ども会や学校関連機関への早々の働きかけが必要です。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	小中学校へへの出張茶道体験教室を実施し、茶道を身近に感じて頂ける活動内容を考えていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域づくりハンドブック「川越igoまちBOOK」作成事業
団体名	川越igoまち倶楽部
市担当課名	地域づくり推進課
事業の目的	川越igoまち倶楽部は、設立以来「囲碁」をテーマとし、参加体験型の諸事業を通じ、次世代育成・観光振興・多世代交流などにつながる地域づくりを推進しています。“誰もが主役”という考え方や事業運営の手法は『川越モデル』として注目され、視察や問い合わせが相次いでいます。そこで川越igoまち倶楽部のエッセンスをわかりやすくまとめたハンドブックを製作し、地域づくりの手法を点から線・面へと水平展開することを目指します。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月～7月中旬：内容及びレイアウト検討</li> <li>・7月16日：第1回検討会議（仮台割、ラフレイアウト承認）</li> <li>・8月～9月上旬：原稿執筆、詳細レイアウト作成</li> <li>・9月上旬～9月中旬：デザイン作成</li> <li>・9月17日：第2回検討会議（校正紙を元に内容を検討、概ね承認）</li> <li>・9月下旬～10月上旬：テキスト・デザイン修正</li> <li>・10月12日：校了、印刷発注、配布計画作成</li> <li>・10月17日：納品、配布開始</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「川越igoまち倶楽部」の考え方や事業の周知。</li> <li>・市内の囲碁サークルや囲碁団体とのゆるやかなネットワークのよびかけ。</li> <li>・地域づくり活動の手法の啓発・活用。</li> <li>・ハンドブックの配布（市の施設以外）</li> </ul> <p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報、地域活動団体への啓発、観光や教育など市関係課との連絡調整など。</li> <li>・ハンドブックの配布（市の施設、市民活動団体等）</li> </ul>
事業の成果	<p>川越igoまち倶楽部の考え方を、写真やイラストを豊富に使って、見やすく分かりやすく紹介する冊子ができました。協働事業分200部については、地域づくり推進課の協力を得て、市内の文化施設・市の関係部署・公民館・図書館・市民活動団体などへ配布（別紙配布リスト）。その他、自主財源で800部増刷し、囲碁イベント参加者・igo教室の保護者・日本棋院・日本棋院県内支部・プロ棋士・マスコミ等に配布しました。これにより、“みんなが主役”の考え方や、市民主体の運営、地域連携といった本誌の趣旨を広く知っていただくと共に、多様な世代・特性を有する人たちが楽しく主体的に参加する市民活動の手引書として活用します。</p> <p>冊子の情報は、当会のホームページ、まちづくりネットワーク、日本棋院、マスコミ等を通じ全国規模で発信されるため、“川越の地域力”を広くアピールする上でも有効であると考えています。</p> <p>また、本誌を教材とする視察・研修・相談の受け入れも開始しました。すでに戸田市から囲碁のタイトル戦運営の相談が寄せられ、市民活動を始めた人は、子どものやる気を引き出す方法を学ぶため、親子igo教室に参加。地方からの講演依頼も舞い込みました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>本誌発行を機に、市内の囲碁サークルや囲碁団体との緩やかなネットワークを目指し、積極的な呼びかけを行います。</p> <p>また、本誌を教材とする視察・研修・相談などの受け入れも積極的にPRし、実施していきます。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

## 平成29年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越市に於ける日タイ修好130周年記念国際文化交流事業
団体名	埼玉県在住タイ人クラブ
市担当課名	文化スポーツ部 国際文化交流課
事業の目的	川越の地で、日本とタイの修好130周年を祝い、タイと日本の芸術を相互に披露して文化交流を行う。異文化交流体験と理解を通じ川越市民の心におもてなしの心を育む。2020年東京オリンピックを見据え、市内外および在京タイ王国大使館へ向けた川越市と川越市民の国際性のアピールの場になることも期待する。
事業の実施内容	平成29年10月8日に名細市民センターにおいて、日タイ修好130周年を祝う国際文化交流事業を行いました。 川越市長、在京タイ王国大使館公使参事官からの祝辞のほか、タイ舞踊、津軽三味線、空手道演舞、ムエタイ、前国王に捧げる舞踊などの両国芸術の披露、タイの食、カービング、タイマッサージ、茶道、機織り体験等を通して文化交流を行いました。 参加団体数11、参加人数204名、一般来場者数227名（記帳から把握できた人数）でした。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業の企画、運営、会計、関係部署・団体との連絡など
	川越市の役割 広報、開催場所の提供、関係課への連絡調整など
事業の成果	来場者について：公共交通機関での来場がやや不便な名細市民センターにおいて、把握できただけでも227名の一般来場者があったことは成功だと考えています。市外、県外からも多くのタイ人が訪れました。ただし、手探りの開催だったこともあり、名細市民センター周辺の方を始めとした川越市民への事前PRが不足だった感が残ります。 文化交流について：各団体ともに万全の準備の上での演技だったと感じます。特に、空手やムエタイの小さな子供達に「日タイ修好130周年」の舞台上で演じた記憶が残ったのではないかと思います。 また、折しもプミポン・アドンヤデート前国王陛下の葬儀日程に近かったこともあり、99人のタイ人と日本人混成による前国王陛下を悼む舞踊披露は、日タイが心と技を合わせた友好の象徴的光景でした。 事業の目的達成について：直接的な成果物・数値として現れたことではありませんが、タイの文化を鑑賞しタイ人と触れ合うことで、訪れた外国人（東南アジアの方）に対する心理的バリアを取り除き、おもてなしの心を育む助けになったと思います。 関東圏に暮らすタイ人たちの結束が高まり、川越市に本拠を置く埼玉県在住タイ人クラブの求心力がさらに高まりました。 また、川合市長が臨席されたことは、タイ大使館関係者も喜んでいただいていたと聞いており、早速大使館ホームページ上で記事になりました。市をあげて川越市の国際性アピールになったと感じます。川越市のオリンピックに向けた取り組みの一助になれば、協働の成果の一つと言えると思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	川越市民への事業告知が不足していた感があるので、チラシの配布など、市民へのイベントのPRを見直したいと思います。また、来場者に対してアンケートを実施して、満足度を調査し、事業の改善を図りたいと思います。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	今回は記念事業としての開催でしたが、毎年公民館等で開催している水かけ祭（ソクラーン）など、気軽に市民が異文化交流ができる事業を今後も開催していきたいと考えております。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。